

街角 de 部活 (福祉レクレーション部・マスク研究部)

子育て応援ユニット「チーム宮崎県」
(宮崎市・都城市・国富町・木城町)

・その他

子育て応援ユニット「チーム宮崎県」は、子どもの貧困・不登校や発達凸凹の子どもたちを応援する地域福祉コーディネーターの集まりです。メンバーそれぞれ本職が有り多忙ですが、子どもたちが、日本に生まれて良かったと言えるように、頑張っています。

このコロナ禍を受けて、地域でマスクが品切れとなったため、「手作りマスクで地域をつなぐ輪」と題して、困っている人にマスクを届ける活動を行いました。ふれあいサロンを中心に三密を避けながら、マスクの材料を寄付していただき、手作りマスクを困っている人にお届けしました。

最初は、キッチンペーパーで子どもたちのために作りましたが、市場にマスクが出回る見通しがたたないため布マスクを作る事になりました。手作りマスクを作るにも材料さえない状態でしたが、ラインやメールでマスクの材料の寄付を募り、届けられた布で型抜き→縫い手→洗い→袋詰め工程を各自宅で作業を行い、学校や支援者にお届けしました。

ゴムがないと言えば届き、ガーゼが手に入らないと言えば手配され、気持ち分のカンパ金も届きました。中学生向けの白マスクを作るのに白糸が手に入らなくなり、再度呼びかけるとサロンに届けられていました。縫い手は、コロナ対策で仕事が休みになった人が手伝ってくれました。

本当に困っている人にどうやって届けてよいか、呼びかけをどうやってしてよいか分からなかったり、メンバーの仕事が始まり縫い手が減ったこともありましたが、近隣の小中学校などに約 300 枚を寄付できました。

初めてのマスク作りでしたが、作り方を指導してくださった人や型抜きの人・縫い手などの地域の人たちのつながりを皆「会えないけど感じられた」ようです。「楽しかった」「マスクが作れるようになった」「離れていても人とのつながりが感じられた」との声もきかれました。

そのうち、市販のマスクが市場に出回り、政府のマスクも届くようになったため、手作りマスクも急いで作らなくてもいいようになりましたが、手作りマスクがファッション化したり、機能性を追求されるようになりしたので、手作りマスクを作る人の思いのパワーを活用して、3密を避けつつ、「街角手作りマスクコンテスト」を開催しました。

もともとは、子育て支援を行っている団体であり、「ごちゃまぜコミュニティー」を街角 de 部会と題して取り組んでいます。新型コロナが収束したら、是非宮崎に来てください。まっちょりますよ～。

フードバンク事業「おむす便」

高千穂町社会福祉協議会

- ・ 食材配達
- ・ 貧困対策

「おむす便」では、生活困窮家庭に毎月一回食材を配達し、対象世帯への食の支援とつながりづくりをする活動です。

地域の生産者からの寄附を中心に、集まった食材を生活困窮世帯に届けています。コロナ禍による生活困窮世帯も対象としています。（対象者は、自己申請と関係機関からの情報を基に対応しています。）

密とならないように職員のみで仕分け作業・配達を行ったり、仕分け中も換気をし、配達時はマスク着用で玄関先での対話のみとする等の感染防止対策を行って活動をしています。

地域の生産者さんとはつながることができ、お米はほぼ寄附で成り立っています。また、関係機関と連絡をとって、お困り世帯の情報交換等を行うことができます。（最初はそんな家庭があることを信じて貰えない時もありました。）

対象家庭からの感謝の言葉を受け一方で、周りには知られたくないようで、自ら社協に取りに来る世帯が半数いらっしゃいます。

運営を助成金と寄附に頼っているのが今後どう継続していくかということや、利用者の増加に対応するため、ボランティア人員の確保がこれからの課題です。

コロナに負けんど〜 子育て応援プロジェクト

小林市社会福祉協議会

・ 貧困対策 ・ その他

小林市社会福祉協議会では、コロナ禍で様々な影響を受けた子育て世帯へ、食品等の配布を行いました。

配布する食品等については、個人や企業等に対して、家庭で余っている食品、販売が困難な食品等の寄付を募って集め、対象世帯へ配布を行いました（受取場所と日時を定めて配布しました。）。

感染防止の工夫として、申込については、電話だけでなくQRコードを作成し、メールでの申し込みでの対応も行いました。また、配布時には建物内ではなく屋外での対応とし、受渡時間を短時間にするために受付簿を50音順にするなど工夫を行いました。

受渡時に「助かります」との声をいただき、取り組んでよかったと思えました。しかし、申込についてメールでのやり取りが多く、連絡がない方は既読しているのか不安であり、メールチェックや返信等の事務が増えました。

食品寄付を呼びかけた所、たくさんの方の協力を得られ、寄付をいただく際「何か出来る事がないかと考えていた」等、取り組みへの感謝の言葉をいただくことが多く、関心度も高く思えました。

コロナの感染は先が見えない状況ですが、専用の端末やSNSの有効活用も行いながら、今後も継続していきたいと考えています。

ICT を活用した高齢者の見守りの新たな仕組みづくり

日向市社会福祉協議会東郷支所

- ・見守り
- ・声かけ
- ・安否確認

地域の中の集いの場づくり、支え合いの仕組みづくりを推進してきた東郷町においても、コロナ禍により地域活動の制限、外出の自粛を余儀なくされ、ひとり暮らしの高齢者が孤立することの不安感の増大等の課題が生じました。みんなで集うことによる介護予防、地域での見守りに限界を感じる中、ICT の活用による新たな見守りの仕組みづくりに取り組みました。

令和 2 年 6 月より、2 か月間無償モニターとして業者より貸与されている『見守りロボット』を、今後も引き続き地域住民の勉強会や体験会等で活用し、また、必要に応じて希望者（見守りが必要な独居高齢者）に試験的に貸し出しができるような体制にしました。

おしゃべりロボットと、2 種類のセンサー（振動センサー、部屋センサー）にて察知した異変は、家族・地域住民をライングループに登録して通知できるようにしており、遠隔での見守りを可能にしています。

なお、おしゃべりロボットの試験的な使用を通じて、ICT の活用の可能性に気付いた御本人と御家族が、他の ICT 機器での見守りの方法を独自に組立てている例も出てきています。



介護予防運動教室「健康イキイキ体操」の動画配信

西米良村介護予防サポーター協議会

・サロン ・その他

高齢者の運動機能維持、改善と気軽に集まり交流することを目的に村内各地区において運動教室を行っていますが、コロナウイルス感染症の影響により、教室が開催できない状況となったため、介護予防サポーター協議会が実施主体となり、村内全戸に設置されている告知端末を活用し、体操動画を毎日配信することで高齢者の運動への意識づくりを行いました。

告知端末を見ながら自宅で行うため、感染の心配は少なく、告知端末では毎日 10 時と 15 時に手洗いうがいの喚起も行い、予防の意識を高めています。

外出する機会が少なくなった高齢者にとって、見慣れたサポーター（運動指導員）が登場する体操動画を見ながら運動する機会は、楽しいと言っていました。また、教室の担当者は、コロナの影響で教室が開催できず、高齢者の運動機能の低下や認知症が進行することを大変心配していましたが、この取り組みにより、少しでも体操の機会が増えて嬉しいという感想がありました。

6 月から感染対策を取りながら、体操教室を再開しており、3 か月ほど運動する機会がなかった参加者もいらっしゃいましたが、今後、継続して教室を行い、認知症予防と運動機能の改善にさらに力を入れたいと考えています。